

2007 年度修士論文

増築建築の外観設計方法に関する研究

Study on a design method for exterior of extended buildings

市村 駿

Ichimura, Shun

東京大学大学院新領域創成科学研究科

社会文化環境学専攻

目次

3	第1章 序
4	1-1. 研究の背景
6	1-2. 研究の目的
6	1-3. 用語の定義
7	1-4. 研究の方法
7	1-5. 本論の構成
8	第2章 様式建築への増築の種類
9	2-1. 事例の収集
15	2-2. 連続手法の抽出
19	2-3. 増築の4種類
22	第3章 「調整された1ボリューム型」の外観
23	3-1. 事例分析
24	(1) 高島屋東京支店
30	(2) 大阪ガスビル
33	(3) 倉敷アイビースクエア
35	(4) 東京大学工学部6号館
40	(5) 山の上ホテル本館
43	(6) 姫路市立美術館
45	(7) お茶の水スクエアA館
49	(8) DNタワー21(第一・農中ビル)
51	(9) 神戸税関本関
53	(10) 横浜税関本関
55	3-2. まとめ
60	第4章 歴史上の増築事例の外観
61	4-1. 事例分析
62	(1) 東大寺法華堂
65	(2) サンタ・マリア・デレ・グラツィエ
66	(3) シャルトル大聖堂
67	(4) パラッツォ・ファルネーゼ
68	(5) カルロ・スカルパの増築3作
72	4-2. まとめ
73	第5章 結
75	参考文献・図版出典
77	梗概
81	謝辞

第 1 章

序

1-1. 研究の背景

・増築・改修こそ価値がある

修士1年時に半年間留学したベルギー・ゲントの街には、新築の建物がほとんどなかった。中世に商人たちによって建てられた壮麗なギルドハウス群やカテドラルといった有名な建築はもちろんのこと、建築的に特別優れているわけでもない普通の住宅ですら増築・改修をしながら長く使われていた。私たちの住んだアパートも、入居時にちょうど改装中で、住み始めて数週間は職人が来て床を張り替えたり、壁にペンキを塗ったりしていた。

東京に帰ってきて、まず驚いたのは建物の更新のスピードである。近年再開発された東京駅周辺、六本木、銀座などは、数年前とまったく街が変わっているように思う。知っていた建物が気がつけば消えて更地になり、またすぐに新しい建物が建っている、というのは全く珍しいことではない。また建築雑誌を見ても、そこに載っている建物のほとんどが新築である。もちろん、以前と比べれば近年は多くの増築・改修の事例が載るようにはなったが。増築や改修といった手間のかかる不自由な仕事は、若手の建築家がやること、という雰囲気がある。

つまり、新築こそが最も価値があり、増築や改修は劣っている、というのが、一般的な価値観になっている。

しかし今後も今の勢いでスクラップアンドビルドが続くとは考えられない。

日本の人口が減少し、低成長あるいは縮小の時代にならざるを得ない状況に加えて、物理的にはまだもつ建物が既に建っているのだ。現在すでに、高度経済成長期に比べれば増築・改修の事例は増えているが、今後はさらに増加するだろう。

その状況は決して悲観することではない。むしろ都市を改良していく大きなチャンスなのである。

増築・改修による既存建物の再利用は、都市に歴史的連続性をもたらす。ヨーロッパの都市を多くの人が魅力的に感じるのは、様々な時代の建物が混在し、長い時間をかけて、空間的にも時間的にも連続した環境をつくっているからである。「よき景観」は、新たにゼロからつくらねばならないものではなく、現在の環境から連続して

つくるものなのだ。

また地球環境問題という観点からも、既存建物の再利用は有効である。建物の破壊によって発生する建設廃棄物は、産業廃棄物の大きな割合を占めている。廃棄物のリサイクルや省エネルギー建築を建てることももちろん重要であるが、まずは現在ある建物を活用することが、環境負荷を小さくすると考えられる。

以上のような理由から、既存ストックへの増築や改修は、持続可能な環境の構築にとって重要なのである。

・増築の方法

既存建物の再生については、これまでに多くの研究がなされてきた。その成果もあって、現在では歴史的価値のある建物に限らず、既存の建物を増築・改修して再利用することの価値が認められ、増築や改修による建物再生の事例が以前と比べてずっと多くなっている。

とはいえ日本の近代建築においては、建物を残して再利用する文化はまだ始まったばかりである。今はまだ「建物を残す」ことがまず第一で、「残し方」、つまり増築・改修のデザインの質に関してはあまり議論されることがなかった。

増築・改修が新築と異なるのは、更地からの設計ではなく、建物が既にあることである。特に増築においては、いったん完成したはずの建物に、何かを加えなくてはならない。そのとき大きな課題となるのは、外観の設計である。外観は建物の顔であり、既存部分と増築部分が同時に見えるからである。

増築建築における外観の設計方法として、現在では新旧の「対立」という方法が主流をなしている。例えば上野の『国際子ども図書館』（安藤忠雄建築研究所＋日建設計）はその代表例であろう。既存の洋館に、ガラスのボックスを貫通させて、「新旧の空間の衝突」を表現している。

しかし「対立」という方法は、既存の建物を認めつつ、それとはまったく違う建物を増築するということである。



国際子ども図書館

背後には「旧」を認めるが、「新」とは切れている、という姿勢がある。そのような方法が繰り返された先にあるのは、多様ではあるがバラバラなカオスだろう。

いくつもの時代が調和のうちに堆積した歴史的連続性のある都市を実現するためには、増築建築の外観設計において、対立に代わり、新旧外観に連続という関係を持たせる方法が重要になってくる。

1-2. 研究の目的

そこで本研究では、増築建築の外観が既存建築の外観と連続という関係をもつ事例の分析を通して、その外観設計方法を明らかにし、今後の増築設計への示唆を得ることを目的とする。

1-3. 用語の定義

増築建築の外観設計方法を明らかにするにあたり、「増築」という言葉を定義する。

増築とは、建築基準法2条十三号によれば、「敷地内の既存建築物の延面積を増加させること」と定義されている。また広辞苑によれば、「在来の建物にさらに増し加えて建てること。たてまし。」と定義されている。

本論では、「増築・既存建物に新たに建物を加えること」と定義する。

床面積は増えているが新たに建物が加えられていないものは増築として扱っていない。また既存建物を一部撤去して新たな建物を加えている場合に、床面積が減っていても、それは増築として扱っている。

1-4. 研究の方法

本研究ではまず、日本における洋風様式建築への近代建築の増築事例を研究対象とする。

洋風様式建築とは、近代建築以前の西洋の様式建築の影響を色濃く受けた建築のことで、煉瓦造の建物やオーダーを用いた建物、また折衷様式の建物のことを指している。

この組み合わせの増築は事例が豊富であり、また既存部分と増築部分が様式の異なる建築であるから、増築設計の方向性が把握しやすいと考えた。

雑誌の文献調査から収集した日本における洋風様式建築への増築事例を類型化し、既存建物と増築建物の外観に連続性のある事例を選び出して、文献調査・実地観察（全ての事例では行えなかった）により外観分析を行い、その外観設計方法を把握する。

次に歴史上の増築事例の外観分析を行い、洋風様式建築への増築以外でも同様な外観設計方法が用いられているかを検証する。外観分析は文献調査・実地観察（1例）により行った。

1-5. 本論の構成

第1章では、研究の背景・目的・方法・本論の構成を述べ、用語の定義を行った。

第2章と第3章では、近現代日本における洋風様式建築への増築を対象としたケーススタディを行う。

第2章で、建築雑誌『新建築』から既存建物が1950年以前に建てられた洋風様式建築であるものを選出し、それらの新旧外観の関係から事例を4つのタイプに分ける。

第3章では、第2章の類型で最も新旧の連続性が高いタイプに分類された事例について、外観の分析を行い、その設計方法を明らかにする。

第4章において、歴史上の増築事例の外観分析を行い、3章で明らかにされた方法の一般性を検証する。

以上を第5章においてまとめる。

第 2 章

様式建築への増築の類型

第2章では、日本における洋風様式建築への近代建築の増築事例を収集し、既存外観と増築外観との関係から事例を類型化することを目的とする。

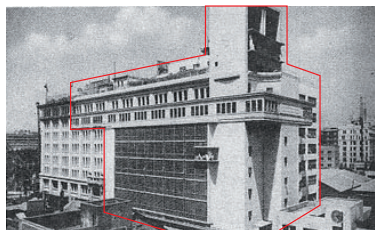
まず雑誌『新建築』から事例を収集する(2-1)。次に文献調査から、収集した事例に見られる既存部分と増築部分の外観の連続の要素を抽出する(2-2)。最後に、収集した増築事例を「連続性の有無」、「ボリュームの分節の有無」により4類型に分類し、それぞれの性格をまとめる(2-3)。

2-1. 事例の収集

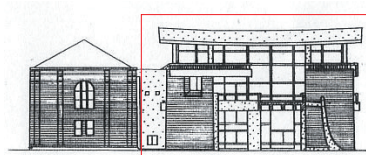
第2章と第3章の研究対象である、日本における洋風様式建築への近代建築の増築事例として、日本国内の主要な事例を掲載している『新建築』誌の1951年1月号から2007年6月号までに掲載された増築事例のうち、既存建物が1950年以前に建てられた洋風様式建築であるものを収集した。

結果、54件の事例を把握した。それらを写真または図面とともに以下に示す。写真又は図面の赤枠内が増築部分である。

No.	掲載年	建物の名称	設計者	竣工年
1	1953	高島屋東京支店	村野・森建築設計事務所	1952
2	1961	立教大学図書館	丹下健三研究室	1960
3	1962	新橋演舞場新館ホール	吉田五十八	1962
4	1966	大阪ガスビル	安井建築設計事務所	1966
5		銀行会館	横河工務所	不明
6		第一銀行本店新館	清水建設	不明

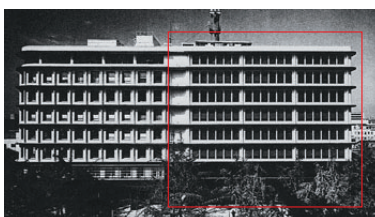


1. 高島屋東京支店

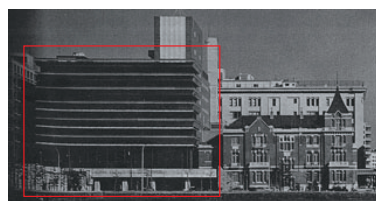


2. 立教大学図書館

3. 新橋演舞場新館ホールは
外観の写真・図面なし



4. 大阪ガスビル

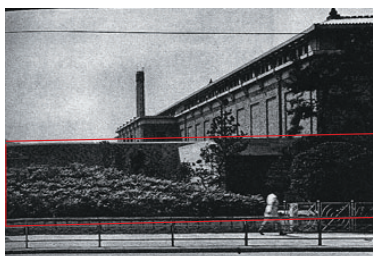


5. 銀行会館

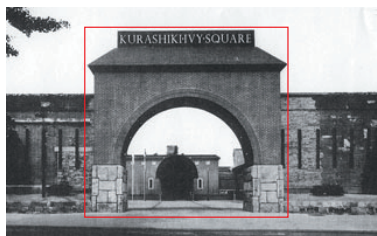


6. 第一銀行本店新館

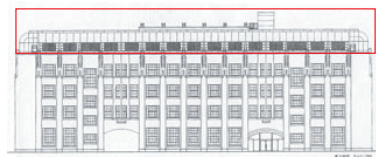
No.	掲載年	建物の名称	設計者	竣工年
7	1972	京都市美術館収蔵庫	川崎清+建築研究協会	不明
8	1974	倉敷アイビースクエア	浦辺建築事務所	1974
9	1975	東京大学工学部6号館	香山壽夫	1975
10	1978	中京郵便局庁舎	郵政大臣官房建築部	1978
11	1979	金沢市立図書館	谷口吉郎	1978
12	1980	山の上ホテル本館改修	アトリエ・アイ	1980



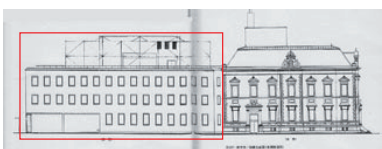
7. 京都市美術館収蔵庫



8. 倉敷アイビースクエア



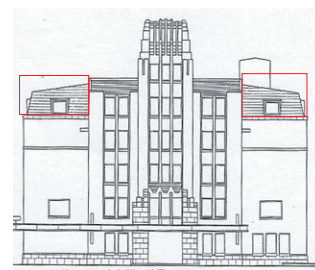
9. 東京大学工学部6号館



10. 中京郵便局庁舎

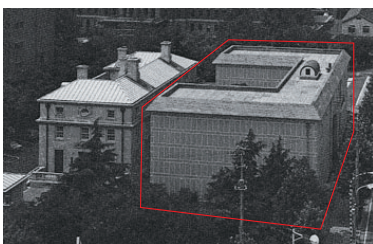


11. 金沢市立図書館

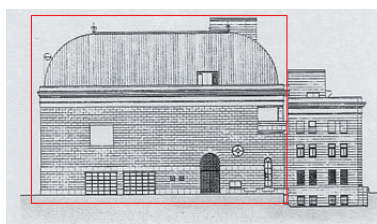


12. 山の上ホテル本館

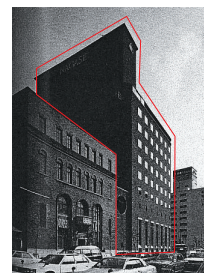
No.	掲載年	建物の名称	設計者	竣工年
13	1981	横浜開港資料館	浦辺建築事務所	1981
14	1983	神戸市立博物館	坂倉建築研究所大阪事務所ほか	1982
15		長瀬産業本社ビル	竹中工務店	1982
16		姫路市立美術館	創設計事務所	1982
17	1987	Villa del sol	志水正弘 林公子	1987
18	1988	京都大学文学部博物館	京都大学川崎研究室	1986



13 横浜開港資料館



14. 神戸市立博物館



15. 長瀬産業本社ビル



16. 姫路市立美術館

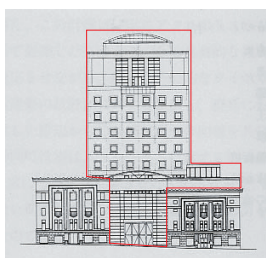


17.villa del sol



18. 京都大学文学部博物館

No.	掲載年	建物の名称	設計者	竣工年
19	1988	お茶の水スクエアA館	磯崎新アトリエ	1987
20	1989	京都府京都文化博物館	京都府土木建築部宮繙課ほか	1988
21		東京大学御殿下記念館	芦原建築設計研究所	1989
22		日本火災横浜ビル	日建設計・東京	1989
23		エスカミュージズ	若林広幸建築研究所	1989
24	1992	静嘉堂文庫美術館	高木建築設計事務所	1992



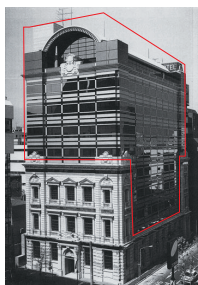
19. お茶の水スクエア A 館



20. 京都府京都文化博物館



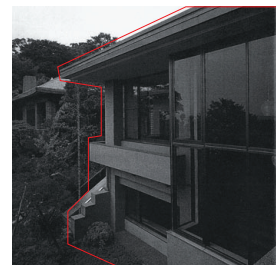
21. 東京大学御殿下記念館



22. 日本火災横浜ビル

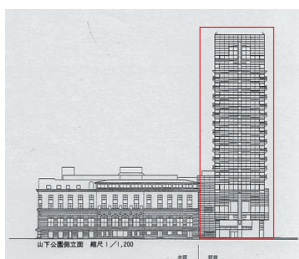


23. エスカミュージズ

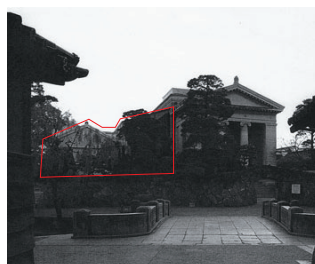


24. 静嘉堂文庫美術館

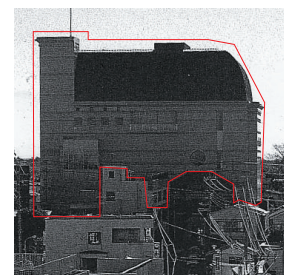
No.	掲載年	建物の名称	設計者	竣工年
25	1992	ホテルニューグランド	清水建設	1992
26	1994	大原美術館本館増築	浦辺設計	1991
27	1995	佐倉市立美術館	坂倉建築研究所大阪事務所	1994
28		千葉市美術館・中央区役所	大谷幸夫・大谷研究室	1994
29	1996	DNタワー21(第一・農中ビル)	清水建設一級建築士事務所ほか	1995
30		ミュージアムパーク アルファピア	武田光史建築デザイン事務所	1995



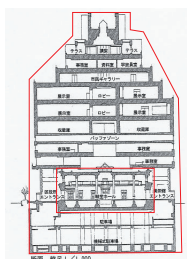
25. ホテルニューグランド



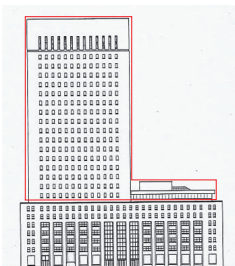
26. 大原美術館本館増築



27. 佐倉市立美術館



28. 千葉市美術館・中央区役所

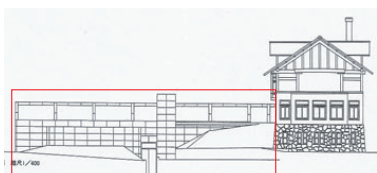


29. DN タワー 21(第一・農中ビル)



30. ミュージアムパークアルファピア

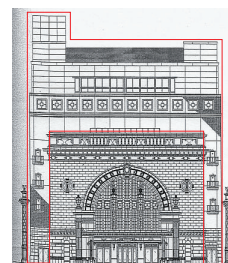
No.	掲載年	建物の名称	設計者	竣工年
31	1996	大山崎山荘美術館	安藤忠雄建築研究所	1995
32	1997	東京大学工学部1号館	東京大学施設部・香山壽夫ほか	1998
33		大阪松竹座	ユウ・アソシエイツ	1996
34		大手町野村ビル	大成建設一級建築士事務所	1997
35	1998	北九州市旧門司税関	大野秀敏+アプル総合計画事務所	1994
36		海岸ビル	昭和飛行機工業 竹中工務店	1998



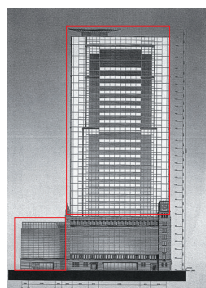
31. 大山崎山荘美術館



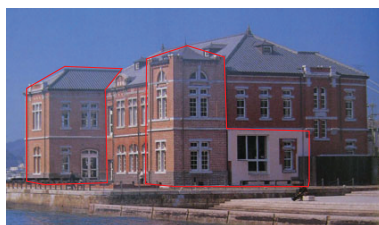
32. 東京大学工学部1号館



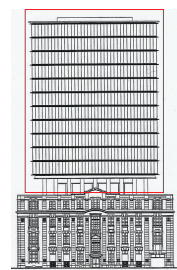
33. 大阪松竹座



34. 大手町野村ビル

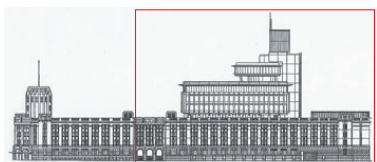


35. 北九州市旧門司税関



36. 海岸ビル

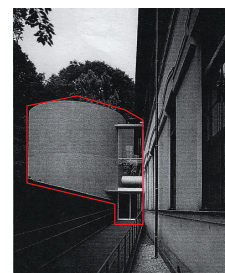
No.	掲載年	建物の名称	設計者	竣工年
37	1999	神戸税関本関	建設省近畿地方建設局管轄部 日建設計	1999
38	2001	新風館	NTTファシリティーズほか	2001
39		東京大学総合研究博物館小石川分館	東京大学キャンパス計画室ほか	2001
40	2002	立教大学第1食堂	立教大学管財部施設課ほか	2002
41		横浜赤レンガ倉庫1号館・2号館	新居千秋都市建築設計	2002
42		国立国際子ども図書館	安藤忠雄建築研究所+日建設計	2002



37. 神戸税関本関



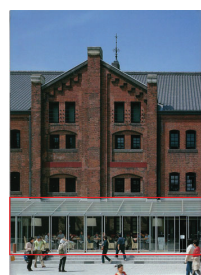
38. 新風館



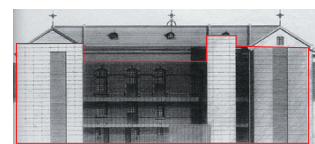
39. 東京大学総合研究博物館
小石川分館



40. 立教大学第1食堂

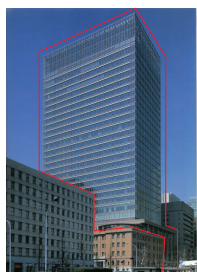


41. 横浜赤レンガ倉庫1号館・2号館

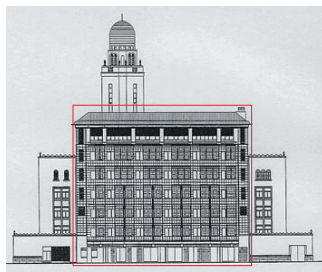


42. 国立国際子ども図書館

No.	掲載年	建物の名称	設計者	竣工年
43	2003	日本工業倶楽部会館・三菱信託銀行本店ビル	三菱地所設計	2003
44	2004	横浜税関本関	香山・アプル設計共同体	2004
45		明治安田生命ビル	三菱地所設計	2004
46		交詢ビルディング	清水建設	2004
47		横浜アイランドタワー	都市基盤整備公団 榎総合計画事務所	2003
48		京都大学百周年時計台記念館	川崎清+環境・建築研究所	2003



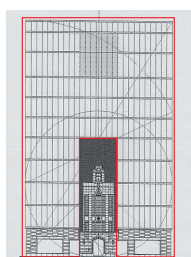
43. 日本工業倶楽部会館・
三菱信託銀行本店ビル



44. 横浜税関本関



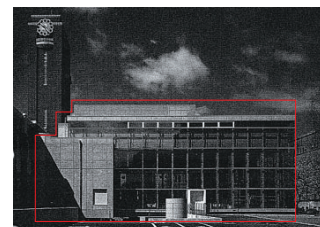
45. 明治安田生命ビル



46. 交詢ビルディング



47. 横浜アイランドタワー

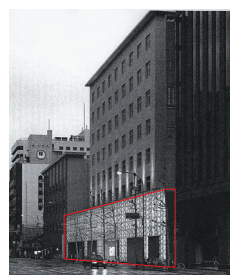


48. 京都大学百周年時計台記念館

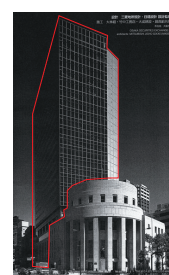
No.	掲載年	建物の名称	設計者	竣工年
49	2005	「ルネスホール」旧日銀岡山支店改修	佐藤建築事務所/岡山県設計技術センター	2005
50		COCON烏丸	隈研吾建築都市設計事務所	2004
51		大阪証券取引所ビル	三菱地所設計・日建設計 設計監理共同体	2004
52		参議院参観・テレビ中継施設	国土交通省 大臣官房 官庁営繕部ほか	2004
53	2006	日本橋三井タワー	シーザーペリアンドアソシエーツジャパン	2005
54	2007	東京大学工学部2号館	東京大学工学部建築計画室ほか	2005



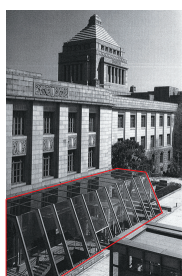
49. 「ルネスホール」旧日銀岡山支店改修



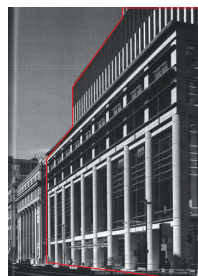
50.COCON 烏丸



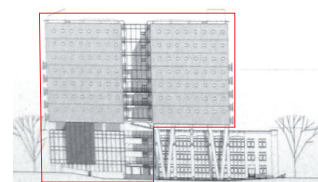
51. 大阪証券取引所ビル



52. 参議院参観・テレビ中継施設



53. 日本橋三井タワー

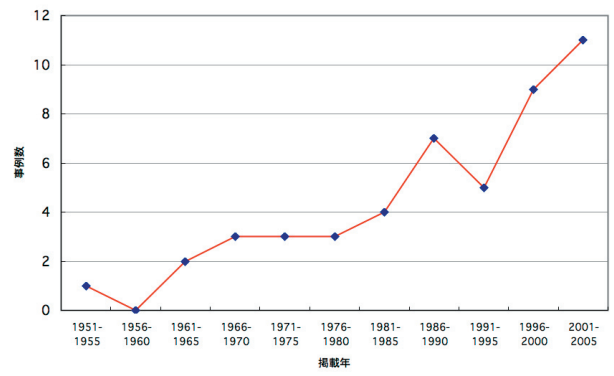


54. 東京大学工学部2号館

・事例数の変化

以上に示した増築事例について、掲載年5年ごとの事例数を表したのが右グラフである。

掲載された事例数は80年代から増加の傾向にある。戦前の洋風様式建築を再利用することの価値が徐々に認められてきているのがわかる。



事例数の変化